



文化財愛護
シンボルマーク

北栄町文化財調査報告書第3集

平成18年度

町内遺跡発掘調査報告書

2007.3

鳥取県東伯郡

北栄町教育委員会

序 文

この報告書は国・県の補助を受けて北栄町教育委員会が平成18年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の記録です。

平成17年に北条町と大栄町が合併し、北栄町が誕生しました。北条町、大栄町はともに多くの埋蔵文化財の所在が確認されており、過去には鳥取県営畑地帯総合土地改良事業をはじめ、ダム建設、農道整備など多くの開発事業が実施されております。このため、埋蔵文化財保護の立場から、各関係機関と協議を重ね、開発工事と文化財調査の調整を図り、さらに地元の方々のご理解とご協力を得て円滑に文化財行政を進めるように努力しているところです。

今年度の調査は、携帯電話基地局の整備に伴い、国坂地区、上種地区の2カ所で行いました。国坂地区は本町の北東、北条砂丘の内部に位置し、これまであまり明かではなかった砂丘地の内部での調査となりました。上種地区は、本町の南部、南西方向から伸びる丘陵上の平坦地で、周知の遺跡の範囲に隣接する場所でした。

この調査に当たり、ご協力いただいた関係者各位、とりわけ発掘現場で作業に従事していただいた皆さん、ご指導いただいた鳥取県教育委員会文化課、鳥取県埋蔵文化財センターの方々に対して深く感謝と敬意を表するものであります。

平成19年3月

北栄町教育委員会

教育長 岩 垣 博 士

例 言

1. 本報告書は、平成18年度に北栄町教育委員会が国・県の補助を受けて実施した、埋蔵文化財分布・試掘調査の報告書である。調査は、ボーリングによる掘削と、各事業予定地内に試掘トレンチを設定・掘削を行い、遺跡の有無・範囲・性格、遺物の分布状況等を記録・確認した。
2. 国坂地区のボーリング業務を株式会社ウエスコ倉吉営業所に委託した。
3. 本書の執筆・編集、遺稿・遺物の写真撮影は池田が行った。写真等の整理は池田の指導の下、浜本がおこなった。
4. 土色・土質の注記に際しては、標準土色帳を利用した。
5. 本書で使用した方位は座標北（国土座標第V座標系）であり、他の方位等を用いた際にはその旨を記した。標高はT、P（東京湾標準）を使用している。
6. 地形図は国土地理院発行1/50,000「倉吉」「大山」、1/25,000「倉吉」「伯耆浦安」を複製、加筆して使用した。
7. 凶面・遺物・写真等は北栄町教育委員会にて保管している。
8. 調査・整理作業、本書の作成に対し、以下の方々の指導・助言・協力をいただいた。ここに記して、感謝の意を表します。

原田雅彦 中山寧人 下江健太（鳥取県教育委員会）

株式会社ウエスコ

（敬称略）

調 査 体 制

調 査 団 長	岩垣博士（北栄町教育委員会教育長）
文化財保護委員	宇田川宏 松本達之 日置兼左エ門 南場兄一 田中正子
調 査 指 導	鳥取県教育委員会文化課 鳥取県埋蔵文化財センター
調 査 員	池田 武（北栄町教育委員会生涯学習課）
事 務 局	坂田 優（北栄町教育委員会生涯学習課長） 樋口和夫（北栄町教育委員会生涯学習課）
調 査 協 力	遠藤岑生 大西吉助 阪本照夫 浜本有子 村岡 薫 （五十音順）

目 次

序 文	
例 言	
目 次	
1. 調査に至る経緯	1
2. 位置と環境	2
3. 調査の概要	
国坂地区	5
上種地区	8
まとめ	9
写真図版	10
報告書抄録	13

挿 図 目 次

遺跡分布図	2~3	上種地区 位置図	7
国坂地区 位置図	4	トレンチ平・断面図	8
調査位置平面図	5		
ボーリング柱状図	5		

写真図版目次

写真図版 1

国坂地区 BP 2 着手前 掘削中 調査後風景

写真図版 2

上種地区 完掘状況 調査後風景

1. 調査に至る経緯

1) 国坂地区

平成17年12月、株式会社NTTドコモ中国（以下、ドコモ中国）より携帯電話基地局（北条江北局）の設置に関する埋蔵文化財の取り扱いについての協議が北栄町教育委員会（以下、町教委）になされた。町教委は鳥取県埋蔵文化財センターと連絡を取りながら現地を踏査、現地表面では遺構・遺物の存在は確認できないものの、地表下に何らかの遺構が存在する可能性があることから、ドコモ中国に対し「着工前に試掘調査を行い、その結果をもとに再度協議が必要」との旨の回答をおこなった。

2) 上種地区

平成18年4月、ドコモ中国より、携帯電話基地局（大栄上種基地局）の設置に関する埋蔵文化財の取り扱いについての協議が町教委になされた。町教委は現地踏査をおこない、設置予定地が遺跡地図（鳥取県埋蔵文化財センター発行）に記載されている「東峰遺跡」に隣接しており、何らかの遺構・遺物が存在する可能性が高いことを確認、ドコモ中国に対し「着工前に試掘調査を行い、その結果をもとに再度協議が必要」との旨の回答をおこなった。

ドコモ中国と町教委は調査日程について、両地区とも平成18年度の早期に調査を行い、その結果を基に今後の対応について再度協議を行うこととした。

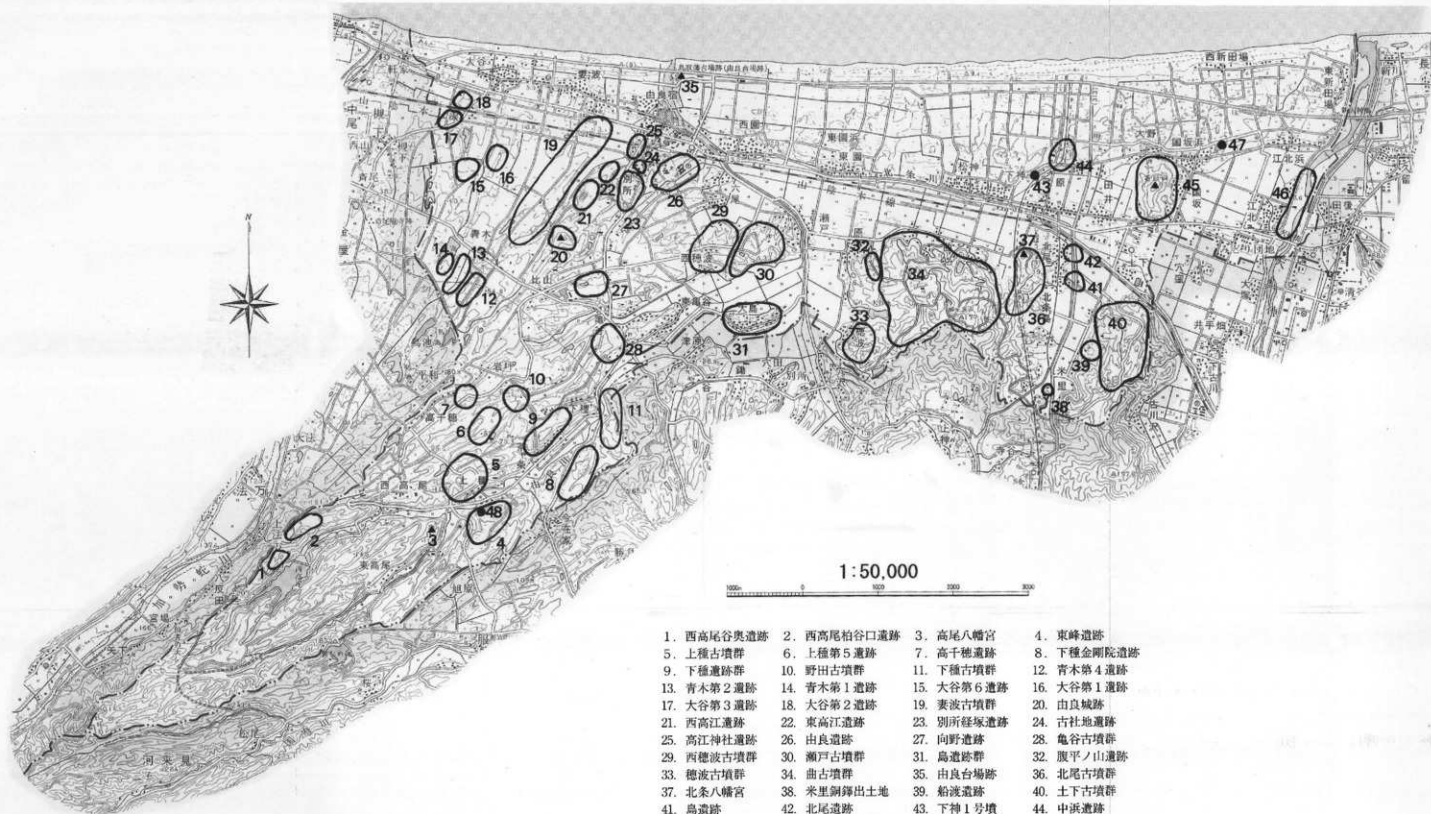
現地での調査は平成18年4月～6月にかけて、整理作業は調査と平行して平成19年3月までそれぞれ行った。

2. 位置と環境

北栄町は鳥取県のほぼ中央に位置し、東は湯梨浜町、西は琴浦町、南は倉吉市に接し、日本海岸を北端に南西に長い三角形を形どる総面積 57.15km²の町である。

本町は中国地方最高峰である大山（1,708m）の北東麓にあたり、町西部では表面を火山灰（黒ボク）が覆う緩やかな丘陵が町南西端の奥谷山（314m）より北東方向に幾筋も伸び、一部は海岸線付近にまで至る。東部でも蜘蛛ヶ家山・茶臼山といった丘陵が続く。日本海沿岸部には河川からの土砂の流入と日本海からの風の影響によって形成された広大な砂丘（北条砂丘）が広がる。いずれの土地も農地として開墾され、北栄町の農業を支えている。

今回の調査地のうち、国坂地区は北条砂丘の東、砂丘の南縁に近い部分に位置する。砂丘地の遺跡分布については北栄町内でもどの部分に遺跡が存在するのか、はっきりしていない部分が多い。しかし、湯梨浜町の長瀬高浜遺跡の様に砂丘の下に古墳や集落跡が確認されている例もあり、北栄町域でも同様の遺跡が存在する可能性がある。上種地区は町南部、南西方向より伸びる丘陵上の平坦部の隅に位置する。南に隣接する区域は「東峰遺跡」



- | | | | |
|------------|-------------|------------|------------|
| 1. 西高尾谷奥遺跡 | 2. 西高尾柏谷口遺跡 | 3. 高尾八幡宮 | 4. 東峰遺跡 |
| 5. 上種古墳群 | 6. 上種第5遺跡 | 7. 高千穂遺跡 | 8. 下種金剛院遺跡 |
| 9. 下種遺跡群 | 10. 野田古墳群 | 11. 下種古墳群 | 12. 青木第4遺跡 |
| 13. 青木第2遺跡 | 14. 青木第1遺跡 | 15. 大谷第6遺跡 | 16. 大谷第1遺跡 |
| 17. 大谷第3遺跡 | 18. 大谷第2遺跡 | 19. 妻波古墳群 | 20. 由良城跡 |
| 21. 西高江遺跡 | 22. 東高江遺跡 | 23. 別所経塚遺跡 | 24. 古社地遺跡 |
| 25. 高江神社遺跡 | 26. 由良遺跡 | 27. 向野遺跡 | 28. 龜谷古墳群 |
| 29. 西種波古墳群 | 30. 瀬戸古墳群 | 31. 烏遺跡群 | 32. 腹平ノ山遺跡 |
| 33. 穂波古墳群 | 34. 曲古墳群 | 35. 由良台場跡 | 36. 北尾古墳群 |
| 37. 北条八幡宮 | 38. 米里銅鐸出土地 | 39. 船渡遺跡 | 40. 土下古墳群 |
| 41. 烏遺跡 | 42. 北尾遺跡 | 43. 下神1号墳 | 44. 中浜遺跡 |
| 45. 茶白山要害 | 46. 天神川河床遺跡 | 47. 國坂調査区 | 48. 上種調査区 |

遺跡分布図

として登録されている区域で、耕作土中には土器の小細片が多く見受けられる。

北栄町内では、多くの遺跡が確認されている。その多くは丘陵上の平坦地に展開する集落跡や古墳群であるが、縄文時代、奈良・平安時代の遺跡や戦国時代の城郭跡も確認されている。

縄文時代の遺跡としては、西高尾谷奥遺跡や島遺跡などがある。西高尾谷奥遺跡は西高尾谷の左岸周辺に展開する遺跡で、押形紋を施した縄文時代早期のものとみられる土器片が出土、住居跡とみられる浅い皿状の落ち込みや石組がみついている。島遺跡は北条島の北条川付近で確認されている遺跡で、河川改修にともなう調査では貝塚が確認され、深鉢などの土器の他、丸木船とみられる木材が出土している。

弥生・古墳時代の遺跡は丘陵台地上を中心に数多く確認されている。その多くは竪穴住居跡を中心とした集落跡で、圃場整備などの開発事業にともなう多くの遺跡で調査が行われた。過去に庇付掘立柱建物で確認された由良遺跡では近年の調査で弥生～古墳時代にかけてのものとみられる田下駄などの木製品が確認されている。このほか、由良宿の南方約1kmの西高江遺跡では、弥生時代中期の玉造工房とみられる住居群が確認されている。

古墳も丘陵地で多く確認されている。その多くは小規模な前方後円墳を中心に円墳・方墳が集まった古墳群を形成しており、特に土下（はした）や曲（まがり）周辺の丘陵地の古墳群は県下でも有数の密度と規模を誇る。全体的にみると埋葬施設として箱式石棺を採用するものが多いが竪穴系横口式石室や横穴式石室も確認されており、古墳時代前期から後期までの多様な埋葬施設が存在している。また、土下213号墳（通称：やすみ塚）付近では首に鹿の子模様を付けた鹿の形象埴輪をはじめ、武人など多くの形象埴輪がみついている。

これより後の時期の遺跡については発掘例がほとんどなく、詳細については未知の部分が多い。しかし、延喜式内社である国坂神社や今日と石清水八幡宮の別社である北条八幡宮、高尾八幡宮が存在することから中央との結びつきが少なからずあり、特に北条・高尾の両八幡宮の存在は荘園制度の中での関係が深かったものとみられる。戦国時代には、中国地方を席卷した尼子氏、毛利氏、織田氏（豊臣秀吉）の抗争の場となり、由良のスクモ塚や茶白山、北尾（堤）に城が築かれた。特に茶白山は詳しい調査は行われていないが、大規模な堀切や曲輪群が確認されており、江戸時代に因幡・伯耆を支配した池田氏の城郭建設の候補地となったともいわれている。幕末期には由良川河口の由良宿に台場（砲台）が建設された。この砲台は外国船打ち払いの為に因伯両国の海岸線に築かれたもののひとつで、平面形が六角形で、西洋式の築城法を用いて建設されたと言われており、砂を積み上げて粘土を張り、さらに芝を蒔いている。この台場には大砲が八門（一説には六門）設置されたと言われていたが、それらが実際に外国船に向かって火を噴くことはなかった。明治維新後、大砲は廃棄改鋳されたが台場はそのまま残され、大正年間に当時の由良町に払い下げられた。台場は現在でもほぼ当時のままであり、日本近世史の資料として昭和63年、国史跡に指定されている。

3. 調査の概要

1) 国坂地区

調査地： 東伯郡北栄町江北

調査契機： 携帯電話基地局新設

調査期間： 平成18年4月25日～5月2日

調査面積： ボーリングによる調査（ボーリング径 60mm）

調査概要： 調査地は、北栄町の北東部、北条砂丘の南縁部近くに位置する。米子往来（伯耆往来）が通る区域の北側で、砂丘地と水田地帯の境界部の北側で建設予定地からは水田地帯をほぼ一望できる。

北条砂丘では現在表面に見えている砂の下に遺跡が存在することが知られており、長瀬高浜遺跡（湯梨浜町）、中浜遺跡（北栄町）で大規模な集落や古墳などが確認されている。このような状況から、今回の携帯電話基地局新設に際し、当該地の地下の遺構・遺物の分布状況を確認すべく、ボーリング調査を含めた試掘調査を行うこととした。

調査では、現地表下6mまでボーリング行い、その結果を確認後、人力掘削を行うこととした。

ボーリング調査の結果、現地表下6mまでの範囲ではクロスナの分布は見られず、地下水位が現地表下5.3m付近に存在することから、当該地付近には遺跡が分布する可能性は低いものと思われる。



国坂地区位置図

2) 上種地区

調査地： 東伯郡北栄町上種

調査契機： 携帯電話基地局新設

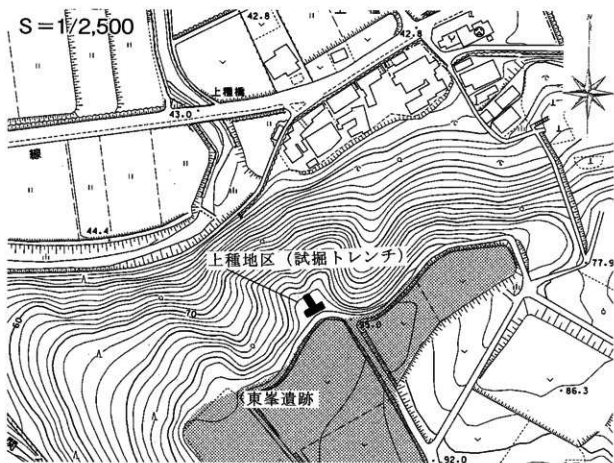
調査期間： 平成18年6月12日～6月21日

調査面積： 試掘トレンチによる範囲確認調査

調査概要： 調査区域付近は北栄町の南部、上種集落の南側の丘陵地で周辺は開墾が進んでおり、畑地となっている。この畑地の過去の分布調査で土器片の散布が確認されており、東峯遺跡として遺跡地図に登載されている。

今回の調査区はこの東峯遺跡が展開する尾根から北側に瘤状に飛び出た平坦地で、遺跡の範囲には含まれていない。しかし、遺跡に隣接した区域であり、何らかの遺構が存在する可能性があったため、試掘調査を行い、遺構・遺物の有無について調査することとした。試掘トレンチは、掘削が予定されるエリアに「T」字形に設定し、調査を行った。

表土(旧耕土)を除去すると、すぐに黄橙色のしっかりした粘土層(地山)が現れた。粘土層には樹木痕が多少残るのみで、遺構等の分布は一切なかった。遺物は旧耕土中で図化できない程度の土器の小細片が極少量見受けられた程度だった。



上種地区位置図

ま と め

1) 国坂地区

砂丘地での調査は過去に数度行われているが、砂丘地全体、とくに天神川左岸を中心に北栄町エリアでの遺跡分布については未知の部分が多い。現在の天神川は北条砂丘を分断する形で日本海に流れ込むが、これは江戸時代の開削で古地岡などをみると、本来は北条砂丘の南端で東に向きを変え、砂丘裾をかすめながら日本海に注いでいたことがわかっており、天神川河床には遺跡も確認されている。

今回の調査では、現地表下6mまでの範囲では、遺跡に関連するものを確認できなかったが、長瀬高浜遺跡などの遺跡にも近く、周辺にはまだ未知の遺跡が存在している可能性があり、今後も開発事業との調整が必要となってくると思われる。

2) 上種地区

北栄町の南から南西部にかけての丘陵地上の平地地には、弥生～古墳時代の集落跡を中心に数多くの遺跡が確認されており、過去の圃場整備事業にともない、多くの遺跡が調査されてきた。

今回の調査地は、分布調査で土器片が確認されているのみで圃場整備時にも調査対象に入らなかった部分であり、今後の埋蔵文化財保護に関連する重要な調査であった。調査の結果としては、遺構・遺物を検出しなかったが、地山面には攪乱の痕跡が少なく、周辺の畑地が比較的高いことから、今回の調査区以外の場所については、まだ遺跡が存在する可能性は否定できず、各種開発との調整が必要になってくるだろう。

参考文献	大栄町誌	1975	大栄町
	大栄地域遺跡群分布調査報告書Ⅶ	1983	大栄町教委
	新修 北条町史	2005	北条町

写 真 图 版



図版 1



BP2 着手前



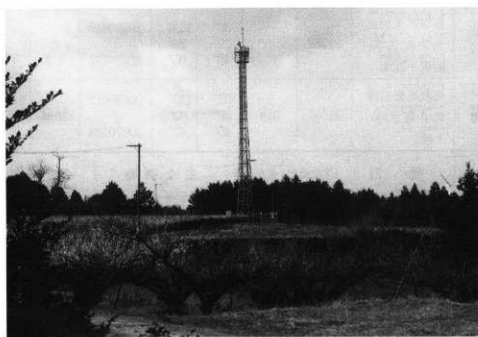
掘削風景



調査後 風景



上種地区 完掘状況



調査後 風景

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいせい18ねんどちようないせきはつくちようさほうこくしょ							
書名	平成18年度町内遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	北栄町埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第3集							
編著者名	池田 武							
編集機関	北栄町教育委員会							
所在地	689-2111 鳥取県東伯郡北栄町土下112 tel 0858(36)5571							
発行年月日	平成19年3月23日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査 面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くにきかしよばい 国坂所在 いせき 遺跡	とっとりけんとうほくごん 鳥取県東伯郡 ほくごんちようたかあざ 北栄町大字 くにきか とうほく 国坂・江北	31367		36° 29' 40"	133° 50' 05"	20070425) 20070731	ポーリ ング 2本	携帯電話基 地局建設
ひがしのみいせき 東峯遺跡	とっとりけんとうほくごん 鳥取県東伯郡 ほくごんちようたかあざ 北栄町大字 ひがしのみ 上種	31367	314	35° 26' 45"	133° 43' 42"	20070612) 20070623	30㎡	
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物		その他・特記事項		
くにきかしよばい 国坂所在 いせき 遺跡			無し	無 し		遺構・遺物検出せず。		
ひがしのみいせき 東峯遺跡	散布地	弥生 古墳	無し	無 し		耕作土中に固化でき ない程度の土器の小片 を極少量検出。		

北栄町文化財調査報告書第3集

平成18年度

町内遺跡発掘調査報告書

発行 平成19年3月23日

発行者 北栄町教育委員会

〒689-2111 鳥取県東伯郡北栄町上下112

Tel 0858(36)5571 Fax 0858(36)4595

印刷 優成印刷有限公司

〒682-0803 鳥取県倉吉市見日町352

Tel 0858(22)5195 Fax 0858(22)0528